

平成 29 年度 第 8 回 尼崎市社会教育委員会議について

標題の会議が、次のとおり行われましたので報告します。

1 日時

平成 30 年 2 月 7 日（水） 午後 1 時から 2 時 5 分まで

2 場 所

尼崎市教育・障害福祉センター3 階 教育委員会室

3 出欠状況（順不同）

- (1) 出席委員 8 名（内 1 名遅参）
- (2) 欠席委員 4 名
- (3) 出席職員 社会教育部長以下 10 名

4 会議成立の報告

定数 12 名中 8 名が出席し、委員の過半数が出席しているため会議が成立している旨を事務局より報告された。

また、前回までの答申についても教育委員会へ報告し、市長への資料提供も行った旨を事務局より報告後、議事に入った。

5 会議内容

協議事項

1 平成 29 年度の事業報告と平成 30 年度の主要事業について

【社会教育課】平成 29 年度事業報告

○尼崎学びのサポート事業

・ 社会教育主事講習

受講者を教育委員会事務局より 1 名、市民協働局より 1 名推薦し、神戸大学での講義に参加した。ブラッシュアップ研修をワークショップ形式で実施し、他者への共感について職務に活かす学習ができた。

・ 生涯学習情報誌「あまナビ」

民間企業との協働発行で 0 円で発行し、4 月は「みんなの尼崎大学の開学記念特集」、10 月は「地域学校協働本部のコーディネーターの活動」を特集した。

・ 生涯学習啓発事業

公民館と連携し、講演会や各地区の生涯学習フェアでの展示等を実施した。

○親子ボランティア体験学習事業

・ 「親子 de 手話・学習体験 手話をしてみよう」

定員を上回る申し込みがあった。手話や指文字を学び、聴覚障害者の方との交流を図った。

・ 「親子 de 交流学習体験 特別養護老人ホームって？」

特別養護老人ホームサンホーム大庄西の協力のもと、施設の見学や入所されている高齢者の方について学び、高齢者の方々と手遊びや歌などで交流を図り、体験後のアンケートでは 96%の方が

ボランティアをしてみたいと回答された。

○あまらぶ歴史体験学習事業

- ・ 「わたしたちの尼崎バスツアー」
中央図書館と文化財収蔵庫を回り、書庫ツアーや機織り体験などを行った。
- ・ 「わたしたちの尼崎親子体験隊」
田能資料館ではブローチづくり、大庄公民館では大庄かるた体験、文化財収蔵庫では糸紡ぎ体験をそれぞれの施設の協力のもと行った。

○学社連携推進事業

- ・ 学校図書ボランティア育成事業
NPO法人尼崎子ども情報センターに委託し、訪問研修を13校で実施し、3月には交流発表会を予定している。
- ・ 特別支援ボランティア養成講座
学校において非常にニーズの高い特別支援ボランティアの養成に努め、今年度までに受講された方のうち22名が活動をされている。また、活動者の出席のもと活動状況の発表や情報交換など、活動の悩みの解決に向けた交流会を実施した。
- ・ 地域と学校の連携・協働活動事業
コーディネーター配置校が2校から16校に拡大しており、今年度中には18校になる予定である。そのうち、モデル校となった尼崎北・杭瀬小学校については文部科学大臣表彰を受けた。加えて拡大と実施校への支援を含めた地域学校協働本部の推進に向けた研修会を実施した。

○人権啓発活動事業

- ・ 市民啓発活動事業
市民啓発冊子「やさしい社会をめざして『ダイバーシティ』」を発行し、回覧や直接配付を通して市民の人権意識の向上に努めた。
- ・ 人権・同和教育振興事業
兵庫県人権教育研究大会阪神地区大会が尼崎市で開催され、1,864人が参集し実践報告や意見交換等を行った。

○人権啓発リーダー育成事業

- ・ 人権啓発オピニオンリーダー設置・研修事業
オピニオンリーダーの研修や、人権学習を希望する学校園への指導者の派遣などを行った。
- ・ 人権啓発推進リーダー設置事業
人権啓発推進リーダーを設置し、人権学習を推進するとともに、各地域での学習会では職員と連携し活躍頂いた。

ほか、人権教育小集団学習事業、人権教育巡回啓発講座事業について報告がなされた。

【社会教育課】平成30年度主要事業（新規・拡充及び施策評価表に係る事業等）

○学社連携推進事業

- ・ 地域と学校の連携・協働活動事業
子どもたちを中心に見据え、地域の方の学びや得意とすることを学校との協働活動に活かして、地域の教育力の向上につなげ、今後の地域振興体制の再構築に係る取組みとしていく予定である。取組内容としては、小学校数の拡大に向けて調整を行うとともに、実施校に配置するコーディネー

ター間の交流会や未実施校も含めた関係課の研修会等を開催いたしますが、32年度中の全小学校での実施に向け、30年度には20校で実施していく予定である。地域や学校への説明、実施校での継続に向けたサポートを行うなど、さらに充実させていくこととしている。

【田能資料館担当】平成29年度事業報告

○特別展事業

- ・ 特別展

10月から12月にかけて実施しており、入館者数は8,360人である。

- ・ 企画展

5月～9月に前期企画展「弥生時代のくらし」を実施し、前年度をやや上回る15,523人の入館者があった。なお、2月10日より後期企画展「アクセサリー*墓」の実施を予定している。

○古代のくらし体験学習事業

例年通り、「勾玉をつくろう」、「石の鍬をつくってとばそう」、「青銅器（銅剣）をつくろう」、「弥生土器をつくろう」を実施している。毎回、定員を超える応募があるが、会場の都合上、定員数を増やす事が難しい。小学生だけではなく、成人の参加もある。

○田能遺跡サポーター養成事業

現在の田能遺跡サポータークラブの登録者は34人となり、養成講座や研修会を11回実施し、年度末にも数回実施する予定である。小学校等の団体見学の対応などで21回、古代のくらし体験学習事業等で38回、延べ158人が活動された。また、復元住居の屋根の葺き替えをサポーター倶楽部との共催事業として行い、屋根の3分の1を葺き替え、延べ13人の参加があった。

【田能資料館担当】平成30年度主要事業（新規・拡充及び施策評価表に係る事業等）

新規・拡充事業はなく、全て継続事業を行う予定であるが、内容的に工夫をしながら市民に親しまれる田能資料館を目指す。また、昨年6月に田能遺跡に関する動画3本をインターネットに掲載し、更なる普及を図っている。

【歴博・文化財担当】平成29年度事業報告

○城内まちづくり整備事業

- ・ 歴史館機能の整備等

現在の文化財収蔵庫の耐震改修及びリニューアルして活用し、歴史館として整備する計画で、今年度は実施設計に着手し現在設計中である。予定として、今年度末に設計が終了、来年度に工事着工、平成32年度秋にオープンを目指して進めている。

○歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業

平成28年9月に取得した戦国時代の城跡である富松城跡を市民とともに協働で保存・活用をすすめるとともに、学習教材として活用することを目指し、今年度は「富松城シンポジウム」を尼崎北小学校体育館で開催した。市の主催事業ではあったが、地域で活動されている富松城跡を活かすまちづくり委員会の共催、尼崎北小学校PTAの後援という形で行われ、12月実施と寒い時期にも関わらず208人と当初の想定を大きく超える人数の参加を頂いた。今後は富松城のパンフレットの作成を予定している。

○文化財収蔵庫企画展事業

第 15 回から 19 回までの企画展を実施・予定しており、第 15 回は事業予算としては前年度予算での実施し、今年度にまたがって開催している。また、第 19 回の企画展は 3 月 17 日から次年度 5 月 20 日までの実施を予定している。今年度は約 12,000 人の来館・ご参加頂いている。

○歴史資料保存公開事業

尼崎信用金庫の尼信会館を会場として展示会を開催している。今年度は 10 月 7 日から 11 月 12 日まで 31 日間の会期で「描かれた泰平の世の人びと」を開催したが、この期間に 2 つの台風が接近したため、多くの来館が見込まれる土日の来館者数が落ち込み、前年に比べると入館者数は減少した。

【歴博・文化財担当】平成 30 年度主要事業（新規・拡充及び施策評価表に係る事業等）

○城内まちづくり整備事業

今年度の実施設計に基づき、着工する予定である。10 月 1 日より文化財収蔵庫を休館し、事務所は旧博愛幼稚園へ仮移転。12 月の議会で工事契約の議決を経て、1 月より着工し、平成 32 年 3 月末竣工の予定としている。その後、文化財収蔵庫の資料の展示・設営等を行い平成 32 年の秋のリニューアルオープンを目指している。また、既にご報告のとおり、文化財収蔵庫が登録博物館となった事に伴い、新たな施設も博物館登録変更により登録する。

○歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業

今年度同様に市民と協働して保存・活用するとともに、地域学習の素材として活用する方策を検討し、学校教材として地域の学校でどのように活用できるかを考えていく。今年度実施したシンポジウムのように、協働の取り組みを展開したいと考えている。

○文化財収蔵庫企画展事業

下半期は休館となるため、次年度は上半期のみ実施する。第 20 回企画展は「これって家にあったよね」と題し、家庭生活用具を展示し、小学 3 年生の学習である「むかしの暮らし学習」の展示を企画展という形で開催して子どもたちに見てもらおう事を考えている。また、次年度末の 3 月は文化財収蔵庫が休館しているため、総合文化センターを借りて第 21 回企画展「尼崎史を彩る人びと」を開催予定である。

○歴史資料保存公開事業

尼信会館をお借りして 10 月から 11 月にかけて開催する予定である。現在建設中である尼崎城が 10 月竣工の予定であるため、「甦る近世尼崎城」と題し、尼崎城に関する展示を行う予定である。

【スポーツ振興課】平成 29 年度事業報告

○がんばりカード事業のリニューアル

市民にカードを配付し、1 日 5 分程度の運動をして頂いたらチェックし、回数を一定回数満した方にはバッチをお渡ししている事業である。平成 28 年度よりバッチをお渡しするだけでなく、取組回数に応じて絵本なども購入し、自分の頑張りが子どもたちに役立つという動機づけになればと考えたが、バッチ交付個数は伸び悩んでいる状態である。

○学校開放事業の運営の地域への移行

平成 26 度予算審議の際に学校開放事業の有料化を提案した際に、有料化するのであればまず現在かかっている費用の見直すべきで、子どもも有料というのはおかしいのではないかとご意

見を頂戴した中で見直しを図った。費用については、平成 26 年度、27 年度にシルバー人材センターの要員の配置の見直しで一定の削減を行った。また、学校開放事業に関しては、他都市では使用団体が自主管理することにより費用をかけずに運営しているという意見を頂戴している。尼崎市においても同様にできないかという面から、小学校区に設置しているスポーツクラブ 21 で運営できないか検討した。しかし、スポーツクラブ 21 はクラブ毎に活動状況が異なり、学校開放自体が学校によって運営状況が違うなどもあるため、まずはモデル校を選定し、試行することで運営の方向を探る。なお、今年度の試行を予定していたが、具体的な内容について固まっていないことから、次年度 4 月には実施できるように取り組んでいきたい。

【スポーツ振興課】平成 30 年度主要事業（新規・拡充及び施策評価表に係る事業等）

○学校開放事業の運営の地域への移行

モデル校の試行実施を視野に入れ進めていく予定である。

○スポーツ推進計画（第 2 期）策定作業

現在のスポーツ推進計画は平成 31 年度末で計画期間が切れるため、次の 2 期計画の準備を行う。平成 30 年 4 月にスポーツ推進審議会へ諮問を行い、具体的な作業に入る。基本的な方向性を 10 月に中間答申を頂き、平成 31 年 8 月に最終答申を頂き計画の策定を行う。また、策定の参考とするため、7 月に市民意識調査を行う予定である。

【中央図書館】平成 29 年度事業報告

○図書館行事事業

中央図書館・北図書館と合わせ、年間延べ約 10,000 人の行事参加者がある。

・ 特別講座図書館で聞こうシリーズ「子育て支援」

3つのシリーズで企画しており、「図書館で撮影?! 子どもインスタ映え講座」ではプロカメラマン、「子育て『お金』講座」では資産運用アドバイザー、「絵本のはなし」では大学教授にそれぞれご協力頂きお話を伺う事業を予定している。

・ みんなの尼崎大学共催事業

「図書館でシエスタを……。眠りたくなる朗読会」を実施した。上級睡眠健康指導士を講師に眠りについて学び、司書が詩を朗読し、参加された方は眠り頭をすっきりさせるという初めての取り組みを行った。好評であったため今後もこのような企画を検討している。

他にも連動して、ビブリオバトルや音楽野祭などを実施し、例年通りマエアツツアーも実施した。

【中央図書館】平成 30 年度主要事業（新規・拡充及び施策評価表に係る事業等）

○城内まちづくり整備事業

ゼロ予算のため工夫して実施する。尼崎城関連の展示コーナーを新設し、関連本を収集する。また、初代城主である戸田氏鉄氏について検証する講座や、人物について学ぶ機会を提供する。この事業は城内まちづくり推進課や地域振興センターなどと連携しながら講師を招き実施したいと考えている。

【中央公民館】平成 29 年度事業報告

○家庭・地域教育推進事業

・ 立花（りっぱな）子育てひろげようサミット

地域の特色を活かした取組として、立花地区では子育てサークルの活動が活発である実情を踏まえ、立花地区で活動する子育て関係団体が一堂に会し、活動内容等の意見交換等の場を公民館が提供し子育て環境をよりよいものとしていく目的で実施している。昨年度は3回、今年度は2月に1回実施を予定している。昨年度3回のサミットの成果として、参加者のうち、子育てサークル、子ども会、民生児童委員、主任児童人の方々による自主グループとして「立花結's (たちばなゆうず)」が結成された。「立花結's (たちばなゆうず)」は、原則第3日曜日に定例会を開催し、今年度子育て支援者向けの講演会を2回開催するとともに、公民館まつりにも参画し、地域の子育て環境づくりに寄与している。2月に実施予定のサミットでは、昨年度、サミットから生まれた「立花結's (たちばなゆうず)」の活動の振り返りと今後の立花地区の子育て支援をよりよいものにしていくための振り返りと展望について話し合う予定である。

○生涯学習推進事業

・ 学びの楽しさを学ぶワンコイン講座

誰もが気軽に学べる学習の機会を提供することを目的に、個人の学びを個人に留めず地域に循環していく仕組み作りとして実施している。今年度は5つの地区で英会話やヒップホップ、フィットネスボクシング、きり絵、写真などの講座を実施しており、これらの教養講座で学んだあとに受講者の方々に対して継続学習をしてはどうかと、公民館職員が働きかけてグループ化を促し、公民館まつりやオープンスクールなどで地域の方々にも学びを還元していこうと取組をすすめている。中央地区については、英会話とキッズダンスの講座を行い、登録グループとなり引き続き活動をされている。小田地区のヒップホップ、立花地区のきり絵についても現在グループ化には至っていないが、まだ継続学習の望みはある。フィットネスボクシングと写真についてはこれから検討していく状況である。

○社会教育・地域力創生事業

・ 生き方探求キャリア教育支援事業

平成28年度より本格実施している事業であり、小学校高学年等を対象に地域の職業人による講義を実施し、児童・生徒が将来の希望や職業など自分らしい生き方について考える機会を提供し、学習意欲の向上を図り、併せて地域の職業人に地域貢献の機会を提供することを目的としている。1月22日現在の実績は、中央地区小学校で1校延べ97人、大庄地区小学校2校で延べ80人、武庫地区小学校で6校・中学校で3校で延べ1,397人、園田地区小学校5校で延べ598人である。平成27年度からモデル実施として武庫と園田の小学校で始めた事業であり、武庫と園田では定着してきている。他の地区は、各学校へ働きかけており、学校側からもやってみたくて手を挙げて頂いている学校と調整をしながら進めている。来年度も引き続き進めていきたい。

【中央公民館】平成30年度主要事業（新規・拡充及び施策評価表に係る事業等）

○家庭・地域教育推進事業

・ 立花（りっぱな）子育てひろげようサミット

平成28年度と29年度のグループワークの結果を踏まえ、子育て支援者同士の一層のつながりづくりや、主体的な学習をより支援するための取組を進めていきたい。「立花結's (たちばなゆうず)」の活動を引き続き支援するとともに、年度末に今年度と同様にサミットを開催し、活動の振り返りを行う中で学識アドバイザーの助言を得て、自主的活動の更なる発展に向けた環境づくりを進める。できるだけ活動が続いてほしいと思っており、公民館としても支援をしていきたい。

○生涯学習推進事業 ・ 学びの楽しさを学ぶワンコイン講座

○社会教育・地域力創生事業 ・生き方探求キャリア教育支援事業

引き続き改善等を加えながら、キープコンセプトで進めていきたい。

《委員からの意見等》

- ・ 文化財収蔵庫が10月1日より閉館となるが、その間は所蔵している展示品などは見れない状態になるのか。事務機能だけが旧博愛幼稚園へ移転するのか。
⇒（事務局）10月1日より閉館とし、展示は難しいため事務機能のみ旧幼稚園へ移転し、展示は行わない予定である。閉館している15ヶ月間は施設をお借りするなどして展示会を開催したい。尼崎城の完成が来年3月の予定ときいているため、完成に合わせて総合文化センターをお借りして収蔵資料の展示を考えている。

- ・ 学校開放事業の運営の地域への移行についてだが、これはスポーツクラブ21がモデルとして小学校で開放事業を行っているのが多いと思うが、シルバーから派遣されている方が居なくなる形になるのか。中学校もそのような形になるのか。
⇒（事務局）中学校については、まだどのようにするかという段階である。小学校については、段階としてスポーツクラブ21が入ったので、そちらの方向で取り組んでいく。ただ、中学校ではそういった団体がなく、スポーツクラブ21が中学校に入れるのかについても、県の事業でもあるので、県の考え方も確認する必要がある。今のところ中学校は現状のままとし、小学校の方で進めていく予定である。

- ・ 中学校の開放事業は、スポーツ開放の他に学校管理も入っているが、学校教育と調整するのか。
⇒（事務局）基本的な方針として学校開放の分は移行し、学校開放として区分されているシルバーの配置については、その部分にスポーツクラブ21が入る形を予定している。現状の案のため変更となる事もあるが、学校開放の部分についても、スポーツクラブが常駐するのも負担が大きくなるため、引き続きシルバーに入ってもらう形を予定している。最後の鍵の施設についてはシルバーの方をお願いする中で、シルバーの方が抜ける時間帯が出てくるが、開放運営だけが消えていく状況には現状なっていない。導入の段階としてはできる範囲から取り組んでいこうと考えている。

- ・ 中央図書館の子育て支援講座について関心を持って資料を見ていた。まずは親御さんに図書館に来てもらいたいという入口の意図と思うが、本との繋がりを忘れて頂きたくない。また、全体を見て、子どもだけで参加できるイベントがとても少ない。尼崎市は児童館がないので、生涯学習という意味でも小・中学生でも参加できるイベントを平成30年度は中身は同じでも少し広げて考えて頂きたい。特に図書館や公民館については、そのような部分を期待している。子育て支援は親子対象だけでなく支援者を作るものでもあり、子ども自身を育てるという社会を育てるというものもある。
⇒（事務局）子ども自身の体験講座・事業として「子どもふれあいスクール事業」を各公民館で実施している。親子対象のものもあるが、子どもだけで参加できる事業もある。子どもは親と一緒に来ていても、親はできるだけ手を出さず、子どもたち自身に体験をしてもらうという形である。できれば来年度は中学生にも関わって頂き、縦の交流も図りたいと企画している。

- ・ 小学校は取り決めの中で子どもだけで校区から出ないというものがあるため、公民館が校区内に無い子が行けないので動きにくいところがある。中学校は地域振興センターが行っている社会学の関係で地域の高校生、武庫地区では地域の防犯の関係に中学生も入っているので、公民館も同じような形で参加しやすくなるのではないか。生徒会やボランティアを募るといった形でどこの中学校も実施しているようだ。また、公民館の生き方探求キャリア教育は武庫地区しか中学校は参加していないようだが、他の地区は中学校にアプローチなどはしていないのか。

⇒（事務局）園田地区だけは別であるが、その他の地区は講義形式で行っている。中学校の生徒を対象に授業の枠をお借りして地域の方に将来の人生観や職業観などを語っていただいている。ただ、実際に中学校にも働きかけをしているが、調整がつかず実施できなかった学校もある。今年度は立花地区の方で働きかけたが来年度から実施することになった。できれば、小学校だけでなく、中学校でも広げていきたい。そのためには、学校教育の協力も必要となってくるため、学校教育課との連携も図りたい。
- ・ 武庫地区は助かっている部分もあり、中学校からは今年もやりたいと声が出ている。中学2年生で「トライやる」に行くので1年生の間にこのような話をしてもらい、「トライやる」に繋げる形など将来のキャリア教育についてうまくできていると思う。
- ・ どうしてもキャリア教育、職業人の話となると男性が多くなる。子どもたちには様々な働き方があり、女性のキャリア形成のためにもたくさんのモデルをある程度意図して出して頂きたい。
- ・ 中央図書館で、子ども向けのインスタ映えの事業があるが、子どもの頃からインスタ映えについてどんなふうに学ぶのか。また、インスタ映えを意識し、やり過ぎて事故も増えている。Instagramに掲載することを推奨している・掲載を目的とした講座ではないかと心配している。

⇒（事務局）カメラ講座であるが、少しキャッチーな言葉を入れ、普通のカメラやスマートフォンのカメラを使って撮影した写真をInstagramにもアップできるような写真の撮影法を学ぶ講座として企画している。上手に写真を撮影するという講座である。中央図書館内のステンドグラスなどの写真が撮影できるスポットを三か所用意しており、参加者に案内する。
- ・ 社会教育課の学社連携事業において、市のホームページで色々な取組を見ているが、活動の内容は地域や学校に任せているのか。

⇒（事務局）社会教育課では、地域と学校で協働して子育てをしていくことを目的に、地域の方にコーディネーターをお願いして実施している。地域学校協働本部は何かをしなくてはならないという体制ではなく、登下校の見守りや図書ボランティア、学校整備や学校行事の支援などをしてくださる方など、様々なグループが一つの輪になって子育てを考えようという体制である。せっかく集まったのだから何かしようという思いからどこの学校も事業を実施されておられ、子どもの学力向上を目的に漢字検定を実施したり、地域の事を子どもたちはあまり知らないため地域の歴史について学ぶ会を開いたり、絵手紙について地域の郵便局の方に来て頂いて書き方を学んだりしている。社会教育行政としては、そういった事業のサポートをするが、地域の方を主体に実施して頂く事業となっている。こちらからは何か実施してくださいとはお願いしておらず、地域の方が考えて動いてくださっているような状況である。

- ・ かつては、この地域学校協働本部活動が広がらないとこの会議内で思い悩んでいた事もあったが、平成32年度中には市内全校で実施を目標となるまでに至ったのは、時代の移り変わりや流れ、ニーズが我々が想像している以上に速いと感じる。モデルケースがあるからこそ広がりやすいというものもあるかもしれない。
- ・ 新しい組織を作り、地域振興と合流するという流れになっていたと思うが、地域学校協働本部についてはどのようになっていくのか。社会教育課がメインでやっていくのか、新しい組織がやっていくのか。また、どのような関わりをしていくのか。

⇒（事務局）地域学校協働本部の設置については、地域のコーディネーターの方に教育長が委嘱している。その部分については、委嘱は教育長が行うとなっているため、活動を広める部分については社会教育課が今後もお話をさせて頂きたいと考えている。ただ、活動されているのは地域の方になるため、地域振興センターや公民館で活動されておられる方が入っておられる。また、地域振興センターは地域で活動されている方の把握が社会教育課よりも充実しているところもあり、連携・協力し、サポートについては地域の職員の方々にも協力を頂きながら、市内全41小学校へ進めていきたいと思っている。
- ・ なかなか地域で理解されにくいところや、学校によっては土曜日に学校を貸しますが一切関わらず地域でやってくださいといったところもあり、本当に地域と学校が連携しているのかという疑問を抱くと聞いた。本来目的としているところと少し違うように思いながら聞いていた。今後どのようにうまくなっていくのかという心配もある。

⇒（事務局）地域の方が発案された事業について、例えば漢字検定については地域の方がボランティアを募って、試験官も自分達で行うなど運営をされている。学校開放をしているため学校長が様子を見に来られることもある。地域の方がやる気になっておられるところもあるが、なかなか地域で代表の方を選べない、居ないということもある。その辺りは地域振興センターに行ったり、社会教育課が地域に入り、「このような方はどうでしょうか？」など、学校に近いPTA会長にお願いするなどしている。学校だけでは難しいと思う。地域の教育力の向上の一環として学校長にも地域の方にもお願いをしているところである。
- ・ 地域の方々の頑張りもあって始まったところではあるが、年数が経った時に地域の方が「何かやらないといけない」といった負担がかかってくるのではないかという部分が心配である。

⇒（事務局）サポートの中では頑張り過ぎてはいけないとお伝えし、頑張りすぎず隣の人と手を繋ぐ程度でとお願いしている。

以上